

こうして、五十九年度は村民要求にできる限り応える一方、財源の確保に努めた結果、形式収支で一億一千四百八十八万円、事業を翌年度へ繰り越した分を差し引いた実質収支では、八千七百六十二万円の黒字となりました。

**努力が実り
健全運営に**

まず目的別に見ると、間瀬地区公民館の建設や岩室中学校外装整備などを手がけた教育費が六六・五％増えています。また、農村総合モデル事業や間瀬漁港整備などを積極的に進めた農林水産業費が六・五％、保育園の施設整備を行った民生費が二〇・六％の増となりました。さらに歳出を性質別に分けて見ると、普通建設事業費が五億五千万円余りで、以下、人件費（五億一千四百三十三万円）、物件費（二億四千三百二十八万円）、補助費（消防や衛生組合の負担金や団体の助成など）一億八千八百三十四万円——などがおもなものです。

**建設事業費
は五億円に**

円（一三・六％）減でした。

昭和五十九年度は、新しい時代に即した、きめ細かな村民サービスをすすめ、夢とやすらぎのある村づくりを目指して、村政運営を行ってきました。十八億四千万円でスタートした一般会計も、数回の補正を経て最終的には、下の図のような決算額になりました。歳出は、五十八年度に比べ約二千七百万

村の仕事はみなさんの生活と密接に結びついています。それだけに、一円たりともムダにできません。岩室村では、毎年限られた財源の中で、「夢とやすらぎのある村づくりを」と努力しています。今回お知らせするのは、五十九年度の決算です。これは、一万村民の暮らしに直接かかわった村の家計簿の集計です。なお、この決算は昨年十二月定例村議会で、審議され承認されました。

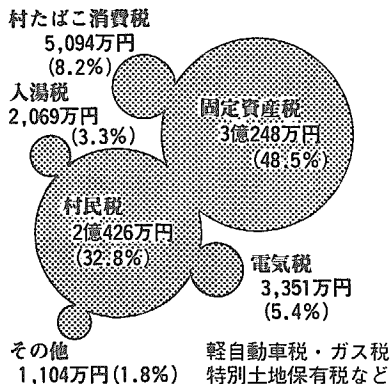
59年度はこのように使いました

1万村民の家計簿

昭和59年度

村税の内訳（歳入）

村民1人当たり 6万2,025円
(59年度末の人口で計算)



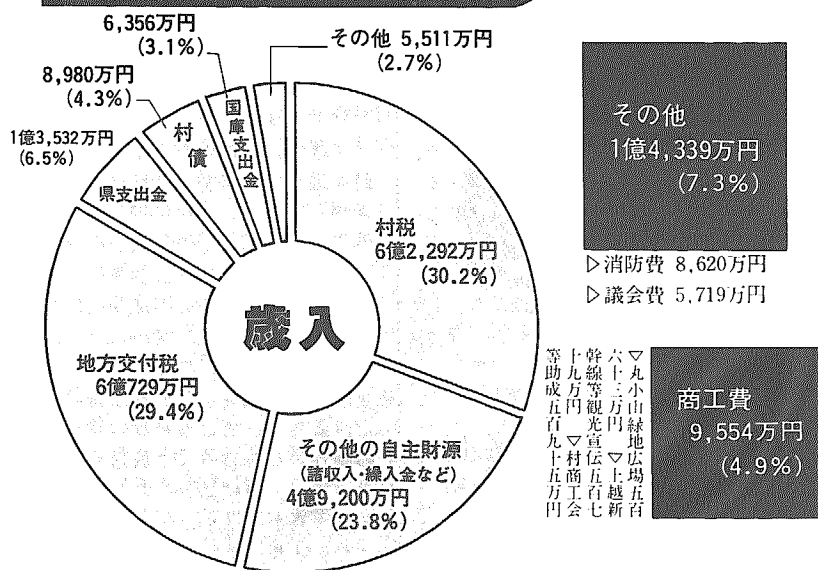
教育費 3億7,965万円 (19.4%)

公債費
1億7,759万円
(9.1%)

村の借入金返済

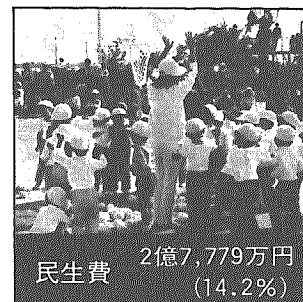
土木費
2億1,809万円
(11.2%)

歳入総額 20億6,600万円
歳出総額 19億5,452万円
差引(黒字) 1億1,148万円

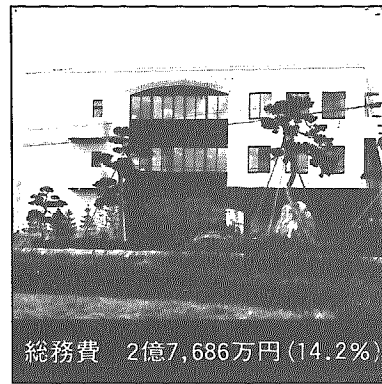


歳出

△印の項目はおもな事業費です。



△老人保健事業 2,011万円 △保育園施設整備 666万円 △老人福祉事業 692万円 △ホームヘルパー派遣事業 170万円



総務費 2億7,686万円 (14.2%)

△非農地排水負担 565万円 △交通安全施設整備 464万円

特別会計決算

昭和59年度

国民健康保険

歳入 4億1,353万円
歳出 3億9,950万円
差引 1,403万円

老人保健

歳入 3億6,651万円
歳出 3億5,669万円
差引 982万円

温泉集中加熱事業

歳入 6,700万円
歳出 4,997万円
差引 1,703万円

土地取得

歳入 365万円
歳出 0万円
差引 365万円

[注]特別会計中、水道事業会計と農業共済会計については、後日お知らせします。

△間瀬地区公民館建設1億3,806万円 △岩室中学校施設整備(外装など) 3,503万円 △小学校施設整備(校舎) 378万円 △村民球場スタンド建設 288万円 △公民館図書 251万円 △文化協会・体育協会などの助成 222万円

△村道などの道路舗装や改良1億4,114万円 △除雪対策 1,534万円 △河川の整備 273万円



農林水産業費 2億7,760万円 (14.2%)

△農村総合モデル事業(道路整備) 7,748万円 △林道整備 2,507万円 △国土調査事業 1,407万円 △間瀬漁港整備 1,345万円 △農道の舗装や改良 1,253万円 △自然休養村事業 957万円 △水田利用再編対策事業 1,564万円

衛生費
1億801万円
(5.5%)

△ごみ収集事業 3,739万円 △総合検診事業 658万円 △し尿処理施設整備 510万円 △予防接種事業 353万円 △人間ドック助成事業 137万円